



## 2023年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年3月31日

上場会社名 日本プロセス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9651 URL <https://www.jpdc.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 多田 俊郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括 (氏名) 坂巻 詳浩 TEL 03-4531-2111  
 四半期報告書提出予定日 2023年4月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年5月期第3四半期の連結業績（2022年6月1日～2023年2月28日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第3四半期	6,530	15.9	688	24.4	733	26.8	507	37.5
2022年5月期第3四半期	5,633	6.5	553	8.5	578	2.7	369	△4.7

(注) 包括利益 2023年5月期第3四半期 479百万円 (275.8%) 2022年5月期第3四半期 127百万円 (△68.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第3四半期	52.57	—
2022年5月期第3四半期	38.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2023年5月期第3四半期	11,397		9,817		86.1	
2022年5月期	11,735		9,671		82.4	

(参考) 自己資本 2023年5月期第3四半期 9,817百万円 2022年5月期 9,671百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	14.00	—	19.00	33.00
2023年5月期	—	17.00	—		
2023年5月期（予想）				18.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 2023年5月期の連結業績予想（2022年6月1日～2023年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,800	10.7	865	11.6	925	14.5	645	21.0	66.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年5月期3Q	10,645,020株	2022年5月期	10,645,020株
② 期末自己株式数	2023年5月期3Q	985,039株	2022年5月期	1,000,926株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年5月期3Q	9,652,360株	2022年5月期3Q	9,586,014株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、感染抑制と社会経済活動の両立に向けた対策により、緩やかな持ち直しの傾向が見られました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う資源・原材料価格の高騰や世界的な金融引締めなどによる海外景気の下振れが、わが国の景気を下押しするリスクとなっております。

情報サービス産業におきましては、業務効率化・生産性向上を目的としたデジタルトランスフォーメーション(DX)など、情報通信技術(ICT)活用の意欲は依然として高いものの、IT投資の動向については慎重に見極めていく必要が生じております。

こうした環境の中、当社は、「ソフトウェアで社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する」を中期経営ビジョンとする中期経営計画(2021年6月～2024年5月)を策定し、人材育成のための大規模案件請負の推進、トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスのトータル度向上を基本方針としております。

人材育成のための大規模案件請負の推進としては、大規模案件を前期より計画通り請負受注しており、開発を通じて新規設計能力やマネジメント力の向上などの人材育成を継続して進めております。

トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスのトータル度向上としては、これまで顧客のご協力を得ながら長期的に継続している「ソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで、顧客に最大のメリットを提供する」という取組みを、各セグメントの事業環境に応じて戦略的に目標を定めて実施し、さらなるトータル度向上により顧客への付加価値向上と競争力強化を図っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,530百万円(前年同期比15.9%増)、営業利益は688百万円(前年同期比24.4%増)、経常利益は733百万円(前年同期比26.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は507百万円(前年同期比37.5%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (制御システム)

制御システムでは、再生可能エネルギーシステムは体制拡大により好調に推移し、プラント監視制御システムは堅調に推移しました。東京圏輸送管理システムは、新たな更新案件が立ち上がり好調に推移しました。新幹線の運行管理システムは、保守フェーズに入り体制を縮小したものの堅調に推移しました。一方、在来線の運行管理システムは、開発量が減少しました。

この結果、売上高は988百万円(前年同期比2.7%増)、セグメント利益は213百万円(前年同期比1.4%増)となりました。

#### (自動車システム)

自動車システムでは、自動運転/先進運転支援関連は前年並みで推移しました。電動化関連は、海外向けの開発規模拡大に伴い受注量が増加しました。車載情報関連は、開発量が大きく増加したことで売上、利益とも増加しました。

この結果、売上高は1,569百万円(前年同期比16.4%増)、セグメント利益は447百万円(前年同期比30.4%増)となりました。

#### (特定情報システム)

特定情報システムでは、危機管理関連の大規模請負案件は開発のピークが過ぎ体制を縮小したものの堅調に推移しました。衛星関連システムは、新たな案件に参画し堅調に推移しました。また、衛星画像関連は堅調に推移したものの自動運転/先進運転支援関連の画像認識/識別案件は、体制を縮小しました。

この結果、売上高は596百万円(前年同期比27.3%増)、セグメント利益は124百万円(前年同期比16.6%増)となりました。

#### (組込システム)

組込システムでは、ストレージデバイス開発は担当範囲の拡大に伴い好調に推移し、新ストレージ開発は概ね横ばいで推移しました。IoT建設機械関連は、受注量が減少し体制を縮小しました。

この結果、売上高は997百万円(前年同期比9.7%増)、セグメント利益は220百万円(前年同期比2.7%増)となりました。

#### (産業・ICTソリューション)

産業・ICTソリューションでは、航空宇宙関連は大型案件に参画するなど好調に推移しました。システム構築関連は、受注量が増加し好調に推移しました。社会インフラ関連の駅務機器開発は、複数の案件を受注し堅調に推移しました。

この結果、売上高は2,379百万円(前年同期比22.3%増)、セグメント利益は396百万円(前年同期比8.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、338百万円減少して、11,397百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び法人税等の支払いに伴い現金及び預金が減少したことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて485百万円減少して、1,579百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び法人税等の支払いが行われた結果、賞与引当金及び未払法人税等が減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて146百万円増加して、9,817百万円となりました。この主な要因は、配当金の支払いに伴い利益剰余金が減少したものの、それ以上に親会社株主に帰属する四半期純利益が増加したことによります。この結果、自己資本比率は、86.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、2022年7月7日に公表した業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,755,256	3,575,576
受取手形、売掛金及び契約資産	2,460,798	2,586,242
電子記録債権	830,935	883,597
有価証券	1,300,602	850,581
仕掛品	82,268	174,991
その他	92,341	127,920
流動資産合計	8,522,202	8,198,909
固定資産		
有形固定資産	218,440	151,550
無形固定資産	48,576	43,232
投資その他の資産		
投資有価証券	2,359,933	2,421,995
その他	586,728	581,348
投資その他の資産合計	2,946,662	3,003,343
固定資産合計	3,213,679	3,198,126
資産合計	11,735,882	11,397,036
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	139,160	147,058
未払法人税等	209,153	47,712
賞与引当金	1,209,927	924,893
その他の引当金	28,551	29,404
その他	410,368	372,374
流動負債合計	1,997,160	1,521,442
固定負債		
長期末払金	66,839	57,477
その他	166	166
固定負債合計	67,005	57,643
負債合計	2,064,166	1,579,086
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,267,368	2,270,166
利益剰余金	6,085,307	6,245,292
自己株式	△629,598	△618,599
株主資本合計	9,210,487	9,384,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	421,787	396,316
為替換算調整勘定	39,440	37,364
その他の包括利益累計額合計	461,228	433,680
純資産合計	9,671,715	9,817,950
負債純資産合計	11,735,882	11,397,036

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)
売上高	5,633,686	6,530,273
売上原価	4,392,892	5,126,033
売上総利益	1,240,794	1,404,240
販売費及び一般管理費	687,033	715,469
営業利益	553,760	688,770
営業外収益		
受取利息	11,182	9,522
受取配当金	21,397	20,813
受取保険金	10,000	10,000
保険解約返戻金	3,819	3,064
その他	5,520	8,425
営業外収益合計	51,919	51,825
営業外費用		
障害者雇用納付金	2,100	1,700
為替差損	11,220	—
租税公課	12,833	3,736
その他	1,175	2,080
営業外費用合計	27,329	7,517
経常利益	578,350	733,078
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券売却損	—	138
投資有価証券評価損	2,178	762
減損損失	—	40,836
特別損失合計	2,178	41,737
税金等調整前四半期純利益	576,172	691,341
法人税等	207,094	183,889
四半期純利益	369,077	507,452
親会社株主に帰属する四半期純利益	369,077	507,452

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	369,077	507,452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△256,333	△25,471
為替換算調整勘定	14,972	△2,075
その他の包括利益合計	△241,361	△27,547
四半期包括利益	127,716	479,904
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	127,716	479,904



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・ICTソリューション	
売上高						
顧客との契約から生じる収益	962,462	1,347,746	468,330	909,061	1,946,085	5,633,686
外部顧客への売上高	962,462	1,347,746	468,330	909,061	1,946,085	5,633,686
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	962,462	1,347,746	468,330	909,061	1,946,085	5,633,686
セグメント利益	210,967	343,574	106,863	215,039	364,119	1,240,564

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
顧客との契約から生じる収益	—	5,633,686
外部顧客への売上高	—	5,633,686
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	5,633,686
セグメント利益	△686,803	553,760

(注) 1. セグメント利益の調整額△686,803千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△687,033千円及びその他229千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・ICTソリューション	
売上高						
顧客との契約から生じる収益	988,413	1,569,042	596,393	997,197	2,379,227	6,530,273
外部顧客への売上高	988,413	1,569,042	596,393	997,197	2,379,227	6,530,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	988,413	1,569,042	596,393	997,197	2,379,227	6,530,273
セグメント利益	213,858	447,988	124,628	220,778	396,213	1,403,468

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
顧客との契約から生じる収益	—	6,530,273
外部顧客への売上高	—	6,530,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	6,530,273
セグメント利益	△714,697	688,770

(注) 1. セグメント利益の調整額△714,697千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△715,469千円及びその他772千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。